

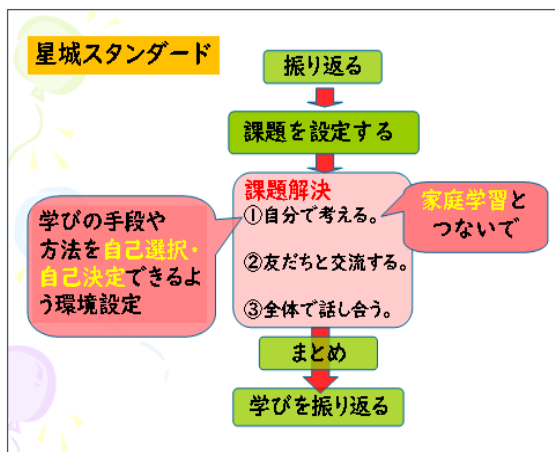
1 研究主題

主体的・協働的に学び、伝え合おうとする児童の育成  
～ 学びの選択と振り返りの充実 ～

2 研究の具体

① 個別最適な学びと協働的な学びの充実

- ・星城スタンダードの共通実践を行う中で、児童が個々に課題解決する方法や手段を選べるよう、環境設定を行う。
- ・家庭学習において自分のペースでキュビナ学習を行い、基礎学力の定着を目指す。
- ・家庭学習と授業をつなぎ、自分の考えをもって協働的な学びの充実を図る。
- ・友だちと学び合って自分の学びを広めたり深めたりし、自分の変容・成長をメタ認知できるよう学習を振り返り、伝え合う活動を行う。



② 教職員の ICT 活用技能の向上のために

- ・各分掌や情報共有のための校務における ICT の日常的活用を推進する。
- ・ICT 支援員と連携し、スキルの向上や多様な活用ができるための ICT 研修を実施する。
- ・ICT を活用した授業実践を行い、指導主事より指導・助言をいただく。

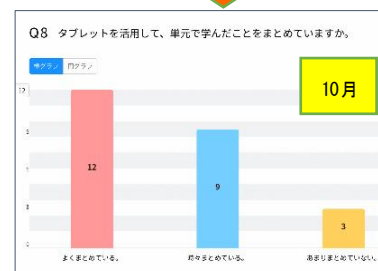
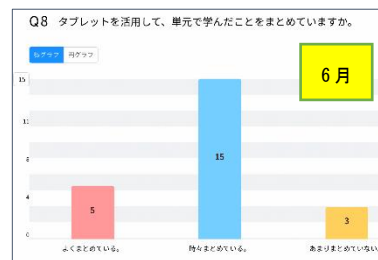
③ 情報教育の計画的実践

- ・児童が自主的に ICT 活用ルールを作成し、日常的に効果的に使えるようにする。
- ・朝の活動や昼の活動の時間を活用し、各学年で身に付けたい情報活用能力の体系表をもとに、基本操作の習得や情報モラルについて計画的に身に付ける。

3 研究の検証

① 校内での ICT に関するアンケート

- ・全国学力・学習状況調査や県学習状況調査の質問紙調査の項目を参考に作成した ICT 活用に関する内容アンケート（6月と10月）を比較・分析し、低学年、中学年、高学年における ICT 活用の状況について考察する。



② 全国学力・学習状況調査における質問紙の分析

- ・ICT に関する項目について前年度と比較したり、県平均と比較分析を行ったりし、ICT を活用した学習の成果を検証する。